

わかみ歯科クリニック

柳本 由美子

このセミナーのレセプションパーティで、熊谷先生からの手紙の中にあった「哲学」という言葉。哲学という言葉調べてみると、答えが沢山ありすぎて余計に混乱してしてしまいました。その中で、このセミナーを理解しやすくするために、いくつか自分が納得いくようなものをいくつか拾ってみました。たとえばこれなんかどうでしょうか？「人の生き方について考える学問」「存在するとは何か」「私たちが生きていく上で当たり前だと思っていることを本当にそうなのか？と考えること」特に最後のフレーズはこのセミナーに通じるものではないかと思いました。

いよいよセミナーが始まりました。内容多岐に渡りました。カリエス、メンテナンス、歯周病、唾液検査、カリオグラムを用いた患者の動機付け、スウェーデンにおけるDHの教育システム、スウェーデンの人頭払いシステム等スウェーデンの歯科状況等、、、スウェーデン料理の様に、かなりなボリュームがあるメニューです。

このセミナーでの自分なりの目標として、カリエスの診断の仕方や介入時期について、ハンズオンでの技術の習得、カリオグラムの活用の仕方など単独での学びとしている所がありました。しかし、全ての知識を持ちあわせることでないと、診断にせよ、予後予測にせよ全く出来ないということを思い知らされたように思いました。知識は下より、その診断に行き着くまでの、見るべき書籍、データの分析の仕方、考え方、捉え方、技術の研鑽、患者さんを変えるメソッド、その行程を順序立てていく日々治療の中で、こんな風に仕事をしていただろうかと、恥ずかしくなりました。それだけの重い任務だということも忘れていたんだと思います。

ある先生おっしゃっていた言葉をふと思い出しました。治療は難しいけど予防は簡単だと、、、たぶんダン先生かと。そうですね、虫歯も歯周病も予防出来ていたらもしかしたら、二日のセミナーで終わっていたかもしれませぬ。それほど予防が大事だということの認識にも繋がりました。患者さんの歯を尊重し口腔を健康に保つということが、全身の疾患を守れるということ、これからのDHの仕事の幅を広げるチャンスとも言えるのではないかと、とも感じます。

セミナーでは沢山の内容を詰め込んで帰ってきました。今現在は、相当な消化不良状態に陥っている状況です。何回か見直し全て消化出来るようにし、分からないところはこのセミナーに参加したDr、DHにずうずうしくもお聞きしたいです。そして最初の哲学のフレーズを少し変えてみて「私たちが診療する上で当たり前だと思っていることが本当に正しいのか？」と、考える。今回考える機会になったのは間違いありません。

最後になりましたが、このようなすばらしいセミナーを体験出来たのは全ての皆様のお陰です。

感謝の気持ちで一杯です。本当にお世話になりました。有難うございました。

Tack ska du ha.